



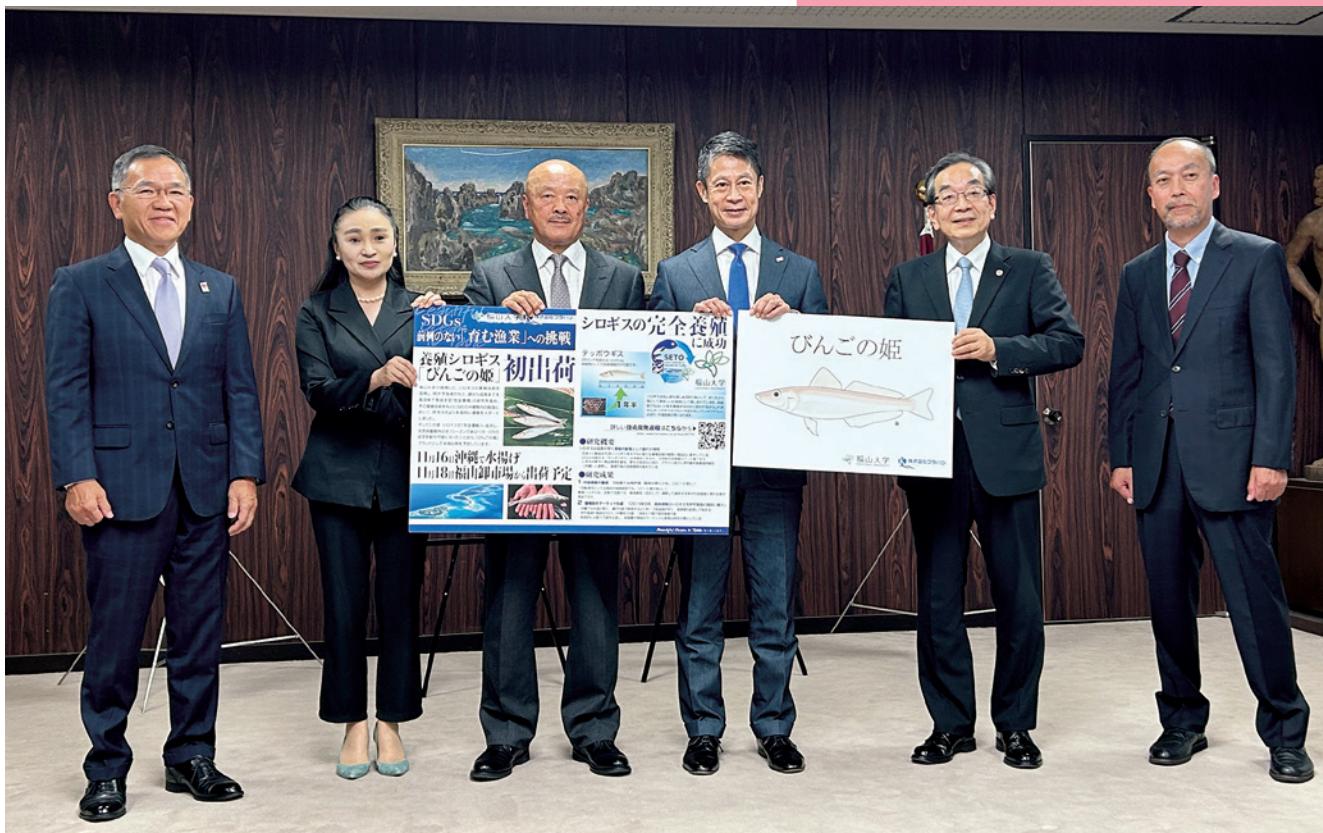
福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

学報

三蔵五訓

真理を探究し、道理を実践する。
豊かな品性を養い、不屈の魂を育てる。
生命を尊重し、自然を畏敬する。
個性を伸展し、紐帯性を培う。
未来を志向し、可能性に挑む。

2023.12.10 Vol. 178



養殖シロギス「びんごの姫」県庁で成果報告

揺るぎなく前進！

トピックス	1
活躍する教員&学生	6
第49回三蔵祭	11
インフォメーション	13
入試情報	15

福山大学 公式
Instagram



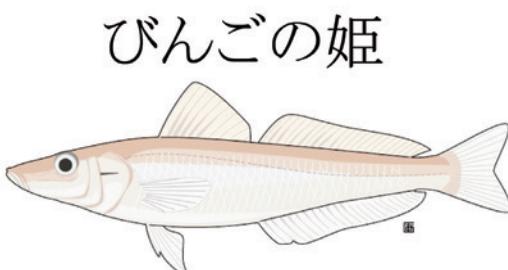
福山大学の学生が技術開発した養殖シロギス、いよいよデビュー! ～「びんごの姫」の本格出荷がもうすぐ～

福山大学では2015年からシロギスの養殖技術や生産した魚の商品としての特性を検討してきました。ですが、いくら美味しいシロギスが養殖でき、魅力的な食材となってもどこかで実証していただけないとただの独りよがりです。そんなことで悩んでいた2018年、福山を本拠地として水産物の流通を手掛けておられる（株）クラハシから「沖縄で稼働している養殖施設を活用してシロギス養殖にチャレンジしてみたい」というオファーが飛び込んできました。温暖な沖縄でシロギスを養殖したら本州よりも早く、1年程度で出荷が可能です。加えて、予定している施設は50KLという大型水槽を24基も使うため、それまでの試験的な生産ではなく、数万、数十万尾の生産が可能になります。一気に事業化レベルでの取り組みが具体的に立ち上がっていきました。その一方で、研究室の学生たちは実証化に向けて養殖したシロギスが市場でどのように使われるのか、またどんなニーズがあるのか、価格はどうなのかななどを調査するとともに、活魚（生きたまま）や鮮魚（〆たもの）での輸送方法について卒業研究として取り組みました。その結果、試験的に出荷した東京や大阪の市場では品質の高さに加え、天然魚以上の鮮度を保つ

た養殖シロギスが大評判で驚くほどの単価で取引される結果となりました。

ここ数年の間に研究室では沖縄での養殖実証のための検討を重ね、2022年度に試行段階からいよいよ大量、安定出荷を目指した取り組みへとステップアップすることができました。(株)クラハシの努力もあり2023年10月現在、養殖用の水槽に約5万尾のシロギスが出荷に向けて泳いでいます。順調にいけば、今後数年で10万尾単位、将来的には50万尾のシロギスを沖縄から出荷できる見込みです。このように2015年から技術開発と同じ世代を重ね、学生たちが汗水流して築き上げてきた養殖シロギスにこの度「びんごの姫」というブランド名を掲げました。すでに商標として登録を済ませ、2023年の秋以降に予定される出荷を待つことになっています。研究室の学生たちが因島キャンパスで種を蒔き、花開いた成果は、きっと皆さんに喜んでいただけるものと信じております。まずはここまでバトンをつなげてきた彼ら、彼女たちに拍手を送りたいと思います。

海洋生物科学系 教授 有瀧 嘉人



オープンキャンパスについて

令和5年度のオープンキャンパス実施計画は例年通り計画し、これまでの見学会・体験入学会の名称を全てオープンキャンパスの名称で実施することとなり、オープンキャンパス1を6月17日（土）、オープンキャンパス2を7月22日（土）、オープンキャンパス3を8月20日（日）、オープンキャンパス4を9月9日（土）に実施しました。今年度は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類になったため、教職員のマスクの着用、手指のアルコール消毒など新型コロナウイルス感染防止対策をしたうえで、コロナ禍前のように全て対面で実施しました。なお、オープンキャンパス1とオープンキャンパス4は昨年までの見学会と同様に午後、オープンキャンパス2とオープンキャンパス3は体験入学会と同様に午前午後の終日実施しました。

6月17日（土）に実施した1回目のオープンキャンパス1には、131名の高校生、106名の保護者の参加がありました。

7月22日（土）の2回目のオープンキャンパス2は、キッチンカー・学内見学バッツアー・学生食堂での無料昼食体験・セグウェイ乗車体験コーナー・女子寮見学ツアー・入試個別相談・学生生活個別相談等の企画を実施しました。また、海洋生物学科については尾道市因島にある内海生物資源研究所で実施しました。554名の高校生、388名の保護者の参加がありました。

8月20日（日）の3回目のオープンキャンパス3は、オープンキャンパス2と実施方法を変更し、複数学科を体験できるよう新たにアラカルト方式で実施しました。企画は学内見学バッツアー・学生食堂での無料昼食体験・セグウェイ乗車体験コーナー・女子寮見学ツアー・入試個別相談・学生生活個別相談の他、新たに図書館見学ツアー・入試説明会を実施しました。なお、海洋生物学科については、尾道市因島にある内海生物資源研究所で実施したため、オープンキャンパス2と同様の実施方法となりました。636名の高校生、451名の保護者の参加がありました。

9月9日（土）の4回目のオープンキャンパス4は、オープンキャンパス1と同様に実施し、176名の高校生、137名の保護者の参加がありました。

令和6年3月16日（土）午後からオープンキャンパス5の実施を予定しています。

現在、当日のタイムスケジュール等については検討中ですが、各学部・学科で工夫を凝らした見学内容を企画中です。近々福山大学ホームページでご案内させていただきますのでそれまでしばらくお待ちください。

入試広報室



福山大学のMakers(工学部みらい工学プロジェクト)Maker Faire Tokyo 2023 に出展

Maker Faireは、様々な分野のつくり手「Maker」たちが全国から集まり、つくったものを見せ、語り、その楽しさを共有するDIYの祭典です。Maker Faire Tokyoは国内最大規模のMakers Faireで、今年のMaker Faire Tokyo 2023(MFT2023)は10月14日(土)と10月15日(日)に東京ビッグサイトで開催されました。この度、福山大学工学部の学生教職員の有志が集まって、福山大学のMakersとしてMFT2023の出展申請をしたところ、審査を通過し、我々の作品を出展しました。

今回出展したのは、

- スマートシステム学科4年 荒木彰英さん(広島県立府中東高等学校出身)のNHK Eテレ「沼にハマってきいてみた」で紹介されたイルミネーション
- スマートシステム学科 伍賀准教授の研究室で開発された、「ドローンを利用したデジタルツイン実現ツール」
- スマートシステム学科 沖准教授の研究室で開発された「海中生物観察無限軌道」

●情報工学科 山之上教授の研究室で開発中の「シン3次元表示装置」と「テレポートドレッサー」

●工学部学科横断型授業である「みらい工学プロジェクト」で工学部1年生が作成した「自動運転電気自動車」です。

出展申請が承認される前の段階から、本学の広報部と工学部・生命工学部事務室とも協力し、準備を進め、会場で着るオリジナルTシャツを作製し、建築学科の佐々木准教授の指導のもと、出展申請のためのWebページを作成し、出展2週間前には、ブースの大きさの場所に同じ大きさの机を置き、展示品配置のシミュレーションを行いました。福山大学工学部同窓会からは参加学生の旅費として助成金のご支援をいただきました。同窓会の皆様に感謝いたします。

会場は、足の踏み場のないほどの大混雑になっていました。福山大学のMakersのブースにも途切れなく、多くの人に見に来ていただき、学生も熱心に作品の説明をしていました。

情報工学科 教授 山之上 卓



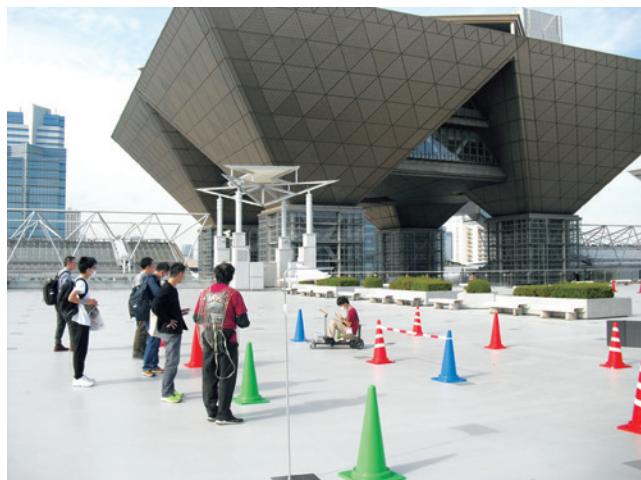
出展作品



本学学生の説明を熱心に聞いている来場者



同窓会からの助成金を受け取った学生諸君



自動運転電気自動車の屋外展示

2023年度 第47回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント出場について

平素より福山大学学友会サッカー部を応援していただいている関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

「2023年度（第47回）中国大学サッカー選手権」では、3年連続9回目の優勝をすることができました。

「2023年度 第47回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント」1回戦では、東海地区第3代表の常葉大学との対戦でした。Jリーグ内定者が複数名在籍している大学でしたが、福山大学の選手たちは堂々としたプレーを披露することができました。結果は、延長後半1分に常葉大学のゴールが決まり0-1で敗退となりました。

我々は多くの関係者の皆様からのご支援とご協力によりまして、競技に打ち込める環境を提供されています。学生の本分をわき

まえ、人間力の向上なくして競技力の向上はないという考え方のもと取り組みを続けてまいります。歩みを続け遡るぎなく前進する福山大学学友会サッカー部を今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

学友会サッカー部 監督 的場 千尋



2023年度（第47回）中国大学サッカー選手権 優勝



2023年度 第47回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 1回戦

2023年度（第47回）中国大学サッカー選手権				
1回戦	シード			
2回戦	6/17	vs 岡山理科大学	6-2 ○	松江市営補助競技場
3回戦	6/18	vs 山口大学	6-0 ○	松江市営補助競技場
準決勝	6/24	vs 広島大学	1-0 ○	ヤマタスポーツパーク 多目的広場
決勝	6/25	vs 周南公立大学	0-0 ○ (PK3-1)	Axis バードスタジアム

2023年度 第47回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

1回戦	9/1	vs 常葉大学 (東海地区第3代表)	延長	岩手県営運動公園 第一グラウンド
-----	-----	-----------------------	----	---------------------

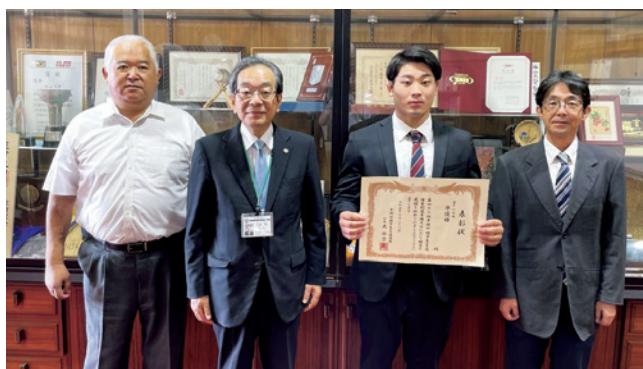
第42回全日本学生柔道体重別選手権大会 男子81kg級に 経済学科2年 福間 尚志さんが出場

福山大学学友会柔道部の福間尚志さん（経済学科2年）が、「第42回全日本学生柔道体重別選手権大会」の男子81kg級に出場しました。柔道部の選手が全国大会に出場したのは久しぶりの快挙です。福間さんは、8月26日に宇都宮市で行われた「第42回 中国四国学生柔道体重別選手権大会（男子81kg級）」で準優勝し、全国大会出場の切符を手にしました。9月26日には彼の活躍を祈念して1号館ピロティにて壮行式も実施されました。全国大会は9月30日に日本武道館にて開催されました。結果は、1回戦において1分22秒に内股で一本を取られ、残念ながら敗退となりました。1回戦の相手は、このクラスで優勝した選手でした。「相手が強く、全く歯が立たず、自分の持ち味のパワーも上手く使うことができず、相手の動きに合わせてしまった。対策が足りず自分もレベルが低いなど感じた。」とのことです。残念な結果ではありましたが、「来



年の中国四国地区大会の個人戦でしっかりと勝ち切り、全国大会で良いパフォーマンスを発揮し、また、団体戦でも結果を残せるようチームを盛り上げていきたい。」と話し、強い選手と対戦することで今後の目標が明確になったようです。福間さんの活躍が柔道部のレベルアップにつながり、多くの選手が活躍してくれるものと思います。今後とも柔道部の応援をお願いします。

学友会柔道部 顧問 鶴崎 健一



全国大会出場について大塚学長への表敬訪問

BINGO OPEN インターンシップ 2023

福山大学では、「BINGO OPEN インターンシップ」をキャリア観の醸成を目的とした教育活動の一環として位置付けています。2023年の「BINGO OPEN インターンシップ」の目玉は、新しいカード型グループワーク教材の導入でした。この教材は、過去BINGO OPEN インターンシップに参加した先輩の失敗談や反省をもとに、これから始まる実習への不安を軽減する目的に開発されたオリジナル教材です。12種類の失敗要因が印刷されたカードを用いて意見交換をおこなうこのグループワークは、学生たちにとって初めて取り組むワークでしたが、大きなトラブルもなく、どのチームも活発に意見交換をおこなっていました。実際、事前研修後のアンケートでは、多くの学生がこのグループワークが非常に役立ったと回答しており、インターンシップ終了後のアンケート結果でも、76%の学生が実際のインターンシップに於いて「役に立った」と、その効果を実感していました。今年度は、福山大学を含む備後地域の4大学から延べ226名の学生が参加し、75の企業や公的機関での就業体験に励みました。「地域で活躍する人を、地域とともに育てる」というステートメントを掲げ、今後も自分未来創造室では、備後地域の企業・公的機関との更なる連携のもと、引き続きインターンシップの教育効果を高める努力を続けていきます。

大学教育センター 講師

キャリア形成支援委員会 副委員長 前田 吉広



研究成果発表会を地場産センターで開催！

福山大学社会連携センターは、研究成果発表会を一般財団法人備後地域地場産業振興センターで開催しました。テーマは「地域課題の解決に向けた連携イノベーション」です。

発表会は全体の司会進行を社会連携センターの都祭弘幸センター長（建築学科・教授）が務め、大塚豊学長の開会挨拶ののち、第一部の特別講演者の、公益財団法人ひろしま産業振興機構福山支所長の鳥越直樹様による、「備後地域のものづくりの歴史と未来」、および本学の研究・社会連携担当学長補佐の仲嶋一教授（スマートシステム学科）による、「福山大学ブランド研究と産業」と題する2講演と、第二部の5学部、および研究センター等による52題のポスターセッションでした。

福山大学はブランディング戦略方針を2017年に策定しましたが、そこから生まれた福山大学ブランド研究「瀬戸内の里山・里海学」に関わる研究テーマの成果が、発表全体の約1/3ほどを占めています。

今回の発表会の参加者数は外部聴講者も含めて約80名でした。これからも福山大学は、他機関との連携によりシーズとニーズのマッチングをさらに深化させ、大学の内部リソースの社会還元を推進していきます。社会連携センターは福山大学のワンストップとしての役割を果たしていくので、今後とも皆様のより一層のご協力とご支援を、よろしくお願ひいたします。

社会連携センター 助教 中村 雅樹



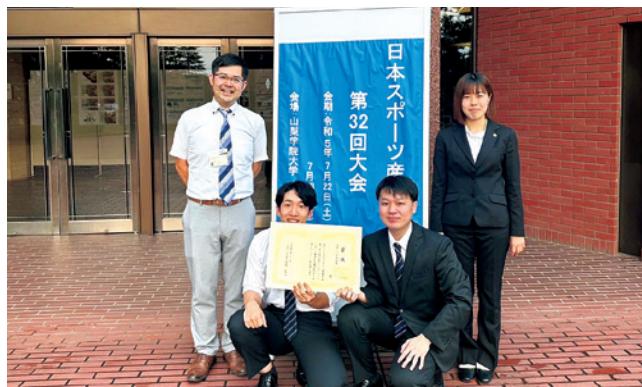
活躍する教員&学生

スポーツ庁官賞受賞

日本スポーツ産業学会では2016年より学会大会において、スポーツ政策・スポーツ産業活性化に向けた提言コンペが実施され、毎年多くの大学や企業からの応募があります。今年度の第32回大会は「スポーツにおける地域創生・まちづくり」「アフターコロナのスポーツ産業」をメインテーマとしてアイデアが募集されました。経済学科の藤本倫史ゼミでは毎年度このコンペに応募しています。今年度は経済学科4年の古玉竜大さん、3年の井戸恋さんと一緒に応募し、「規格外野菜×スポーツ×地域活性化プロジェクト」を提案しました。国内で年間500万トンも廃棄されている規格外野菜をアフターコロナで観客が戻ってきているスタジアムでの食品や飲料に加工、販売し規格外野菜の削減に

貢献するというものです。サンフレッヂ広島からはスタジアムビジネスの将来性を、NPO法人ふぞろいプロジェクトからは規格外野菜についての現状と課題を伺い、株式会社エブリイからは商品の加工や販売に至るまでの過程のノウハウを教えて頂き、広島県の課題を広島県の力を使って解決する企画になっています。トップバッターでの発表でかなり緊張しましたが、スポーツ庁長官賞を受賞できたことは大きな自信となりました。卒業後地元の銀行へ就職しますが、ゼミで培った企画力やプレゼンススキルを活かし、地元に貢献したいです。

経済学科 4年 竹内 涼介



留学生日本語スピーチコンテスト in 広島 2023

「留学生日本語スピーチコンテストin広島2023」で優秀賞を獲得しました。

7月29日(土)に「広島キワニスクラブ」が主催する「留学生日本語スピーチコンテストin広島2023」が広島市中区のひろしま国際センター交流ホールで開催されました。このコンテストで国際経済学科2年のプラタプさん(Gurung Pratap, ネパール出身)が、優秀賞を獲得しました。

テーマは「コミュニティを立ち上げることから学んだ教訓」でした。20人がスピーチに応募し、そのうち13人がスピーチに選ばれ、プラタプさんは準優勝（優秀賞）しました。その他にも、2023年4月のG7サミットスピーチコンテストや2023年2月の福山スピーチコンテストにも参加しています。

国際経済学科 教授 Bisset Ian James



◎ 活躍する教員&学生

「草戸千軒お化け屋敷」を開催しました！

今年の8月、ふくやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）と協働で主催した「草戸千軒お化け屋敷」が開催されました。私は昨年度から参加し、今年は受付や案内、草戸千軒に関する説明を行う裏方班のリーダーを務めました。

このお化け屋敷の大きな特徴は2つあります。1つは、学芸員の方の監修の元、来場した子どもたちが歴史に興味を持ってもらえるように意識している点です。舞台は館内にある草戸千軒の大復原であり、お化けの衣装や小道具も時代に合わせて作成しました。今年度は新たな取り組みとして、歴史クイズも実施しました。2つ目は、お化けの配置や動きに心理学的な知見を使用している点です。犯罪不安と呼ばれる研究テーマの知見を

活用し、恐怖感を高める工夫を施しています。お化け屋敷体験後には、子どもたちに犯罪不安について説明をし、普段の生活の中でも犯罪に遭わないように気をつけるためのきっかけ作りをしています。

多くの仕掛けを盛り込むために、4月から入念に準備しました。リーダーとして、全体の進捗を把握しながら自分の作業もこなすことは予想以上に負担がかかり大変でした。しかし、他のメンバーと協力したり、先生方や博物館の方々の支援を受けたりしながら、無事本番を終えることができました。開催後の達成感や喜びはとても大きく、リーダーの経験も貴重なものとなりました。

心理学科 3年 奥山 棟介



ACジャパン広告学生賞に15年連続入賞！

メディア・映像学科の学生たちが「第19回ACジャパン広告学生賞」において、2つの賞を獲得しました。

新聞広告部門優秀賞を受賞したのは大場唯那さん（4年）で、受賞作品は「解約できないサブスクリプション」です。この作品は「選挙」、特に投票率の低さに着目して制作されています。大場さんは「見る人にテーマが簡潔に伝わるよう、シンプルさにこだわって制作しました。普段から思いついたことはスマホにメモするようにしており、今回はここから案を出しました。私自身、他の応募者に比べ、制作ソフトの操作が特別優れているというわけではないので、日常でひらめいたことをできるだけ丁寧に表現しました。また、新聞に掲載されることを想定した広告だったので、適切なフォントや大きさを選択することに苦労しました。」と語ってくれました。テレビCM部門奨励賞の受賞作品は、こちらも「選挙」をテーマとした「若者の声」です。この作品は、2年生と3年生が履修する「メディア実践」という授業で、6名（4年：中村帆乃香さん、紙屋駿さん、久保艶香さん、黒須隼斗さん、小林悠吾さん、3年：牧平夏旺さん）のグループにより制作されました。

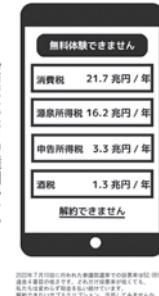
メディア・映像学科では、様々なメディアの制作技能を身につけるとともに、メディアの意味を読み解くための評価や分析を行う中で、自らが発信者として「表現する」ための能力を身につけることを目指しています。その能力が社会に受け入れられて

評価されることが重要ですが、その一つの表れとしてこの賞を15年間連続で受賞するという結果を残しているのです。

メディア・映像学科 准教授 渡辺 浩司



テレビCM部門「若者の声」



このアプリは、これまでの課題解決型の投票率が約2%（5%未満）であることを踏まえ、飲食店のサブスクリプション料金を削減することで、飲食店を始めとする飲食店の投票率を上げることを目指しています。

新聞広告部門
「解約できないサブスクリプション」

びんご建築女子で夏休みこども建築模型教室を開催

建築学科「びんご建築女子」では、地域の子どもたちに実際に模型づくりを通して、建築に触れて楽しく学んでもらうことを目的として毎年子ども建築模型教室を行なっています。

今年の夏は7月29日（土）に8回目となる「夏休み子ども模型教室」を開催しました。

子ども模型教室では、参加者の小学生をびんご建築女子の学生がマンツーマンでサポートしながら、一緒に模型を制作します。

今年の夏はコロナの制限が減ったことで昨年よりも時間をかけられるため、昨年の模型キットをバージョンアップして屋根付きの二階建て住宅の模型キットを独自に作成しました。自分が住みたい理想の家を30分の1の大きさで制作する内容です。5月下旬から準備を始め、模型や家具の形、材料などの細部を試

行錯誤しながら決めていきました。参加する小学生全員が3時間以内に制作可能、かつ、個性を存分に発揮できる模型になるように工夫をしました。

模型教室では、全体説明の後、まずはどんなお部屋を作りたいのか、担当の学生スタッフとしっかり話します。そして、相談しながら設計図を描いてから模型制作に取り掛かります。難しい作業は私たちも補佐しつつ、二人で協力して模型を作っていくのです。

今回は制限時間内に参加した全員が思い描いたアイデアを形にして、魅力あふれる模型を完成させていました。子どもたちのよろこぶ笑顔が何よりも嬉しいことでした。

建築学科 2年 首藤 優奈



“CGエンジニア検定エキスパート”, “Webデザイナー検定エキスパート”に合格!

今年の7月に実施された公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS）の検定試験「CGエンジニア検定エキスパート」に情報工学科1年の藤原翔空さん（岡山県立岡山工業高等学校出身）が合格しました。また、同じくCG-ARTSの検定試験「Webデザイナー検定エキスパート」に情報工学科2年の伊藤潤平さん（鳥取県立米子工業高等学校出身）が合格しました。伊藤さんは「画像処理エンジニア検定ベーシック」にも合格しています。今回のCGエンジニア検定エキスパートは応募者678名で合格率23.9%, Webデザイナー検定エキスパートは応募者332名で合格率42.4%の、どちらとも狭き門でした。

CG-ARTSは、今年度の春の教養講座の講演者である西田友是先生（東京大学名誉教授、福山大学元教授）が理事を務められている団体で、検定試験は文部科学省の後援も受けています。

本学の学生であれば、特別受験会場である福山大学のキャンパス内で受験できます。また、CGエンジニア検定の合格者は、情報工学科のコンピュータグラフィックスの2単位が認定されます。画像処理エンジニア検定の合格者は画像処理の2単位が認定されます。

伊藤さんは今年福山大学の課外活動組織として、プログラミングサークルを立ち上げ、積極的に活動を行っています。

藤原さんはプログラミングサークルのメンバーです。

情報工学科 教授 山之上 卓



合格証を持つ伊藤さん（左）と藤原さん（右）

アラスカでの国際哺乳類学会議で発表

2023年7月14日～20日に、アメリカ合衆国アラスカ州アンカレッジで第13回国際哺乳類学会議が開催されました。私自身は10年ぶりという久しぶりの参加となりました。

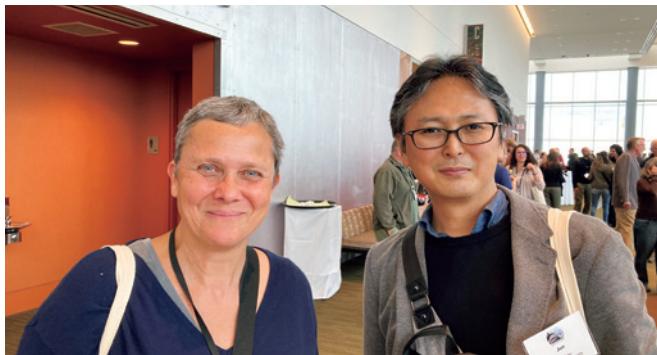
会議では「小さな食肉類のシンポジウム」という企画があり、マンガースの進化の研究で著名なフランスのジェラルディン・ヴェロン博士にお招きいただき、このシンポジウムで講演する機会を得ることができました。ヴェロン博士とは10年ぶりの再会でした。

シンポジウムでは、まず、ヴェロン博士から趣旨説明があり、その後、すぐに私の講演がありました。講演では、動物の味覚がどのように進化してきたのか、そして糞中のDNAを使ってどのように動物の食性を明らかにするのかについて話をしました。講

演は初日にあったので、後は気楽なもので、世界各地の研究者と交流を楽しむことができました。

国際会議を終えて、海外の研究者と対面でコミュニケーションをとることは研究者にとって、とても大切なことであると改めて感じました。つたない英語でも構わないわけです。世界に向かって自分の想いを伝えることは何物にも代えがたく素敵なことだと実感しました。研究者人生を豊かなものにしてくれる、国際会議での発表はそんな研究活動の一つと言えます。なにやら、私の奥底に眠っていたやる気がまた芽を出してきました。

生物工学科 教授 佐藤 淳



日本人初の快挙! イソギンチャクに“科”を設立!

“カワリギンチャク類”と呼ばれるイソギンチャクの仲間は、ヤツバカワリギンチャク上科に属するイソギンチャクの総称で、ヤツバカワリギンチャク科・カワリギンチャク科の2科が属しています。本上科は、体の中の膜の配列がイソギンチャク類の中でも極めて独特なグループであるとともに、一部の種は非常に鮮やかな蛍光色をしていることで有名です。これまで日本からも複数の種が知られていましたが、深海性の希少な種が多いため、未解明の部分の残る分類群でした。

海洋生物科学科の筆者を筆頭とするグループは、各地の水族館の協力も得つつ、日本全国から50個体以上のカワリギンチャク類を収集しました。DNAの塩基配列情報も用いて、その分類および系統を解明しようと試みた結果、以下のような非常に大きな発見がいくつも達成されました！

①本上科に属する4種の新種を発表しました。今回発見された新種には、その見た目の特徴からイチゴカワリギンチャク・リンゴカワリギンチャクという新たな和名がつけられ、さらに長らく学名が“無効”となっていたオオカワリギンチャク・アバタカワリギンチャクに関しても、有効な学名を新たに与えることで新種として記載しました（図参照）。

②分子系統解析の系統樹の樹形より、ヤツバカワリギンチャク科・カワリギンチャク科とも再編が必要であることが示唆されました。よって、新科「ヨツバカワリギンチャク科」を設



立し、一部の種を移動されるとともに、カワリギンチャク科の中にあるカワリギンチャク属を分割し、新属「カワリギンチャクモドキ属」を設立しました。

上記の発見により、日本のヤツバカワリギンチャク上科は3科・6属・11種の生息が確認され、高い多様性を持つことが示されました。イソギンチャク研究の歴史の中で、科の設立は日本人初の快挙となります！

海洋生物科学科 講師 泉 貴人

「フレイル予防」で地域住民の健康意識を向上

私は、「未病」という言葉に対して可能性を感じています。未病からの発病を防ぐことができれば、人生100年時代において、薬に頼る生活を回避したり、先送りしたりすることができるかもしれませんと考えています。フレイルとは、「病気ではないけれど、加齢によって筋力も心の活力も低下してしまい、介護が必要になりやすい虚弱な状態」を指し、「病気と健康の間」を意味する言葉です。主に栄養・運動・社会参加で構成されますが、コロナ禍の影響も相まってフレイルに陥ってしまう高齢者が多いという現状です。

私はこの問題に立ち向かうべく、研究室の先生や仲間の力を

借りて、フレイル予防のための動画を作成・編集しました。福山市西部地域包括センター主催の「老いかた塾」をはじめとした催し事に参加して、動画をご観聴頂きながら、フレイル予防のための知識を共有し、具体的な予防策をお話ししています。動画は寸劇形式で作成しているため、現場では、「楽しく勉強ができたよ!」などの声を多く頂いております。

若い世代からご高齢の方まで、すべての世代においてフレイルに陥らないような生活を心がけることの重要性をこれからも発信していきたいと思います。

薬学科 4年 瀧山 隼太郎



老いかた塾スタッフの皆さんと



「外来生物企画展～水辺のよそ者博～」を開催 学友会海洋生物研究会

学友会海洋生物研究会は、福山市リサイクルプラザにて令和5年8月11日～13日の3日間にわたり夏休み特別企画展を開催しました。今回の活動は「外来種」について深く掘り下げ、身近な外来種や在来種の生体展示と部員による解説、生き物の特徴や国内生態系に与える影響を解説した自作パネルの展示を行いました。また、子どもたちを対象とした催しとして、海や河川、湖沼などの水辺に生息する生き物の色・形・模様の特徴を知り、自由にペイントして作る「プラ板アクセサリー」や「ぬりえ」も行いました。企画、制作、生物の採集から会場設営に至るまでの展示活動全てを学生が主体となり、各々得意分野を活かしながら準備を行い、開催に至りました。

展示期間中は合計16名の部員が参加し、展示の解説やプラ板制作・ぬりえのサポート役として活躍しました。3日間で合計163名の方々にお越しいただき、日々の成果をしっかりと出し切ることができました。活動を終えて、展示に参加した部員からは、個人のスキルアップや仲間との協力ができたこと、新たな課題を発見できたことなど、今回の活動を通じた成長が窺えました。

今回の企画展はもちろん、今後の活動を通して、身近な水生生物や、その生息環境の保全について、少しでも多くの方に興味・関心を持っていただけるように活動していくたいと思います。

海洋生物科学科 3年 奥谷 日奈子



第49回 三蔵祭

三蔵祭を振り返って

第49回三蔵祭は皆様の温かいご支援とご協力により、素晴らしい三蔵祭を実現することができましたこと、心から感謝申し上げます。

前日の準備では、急な雷雨・突風に見舞われ、作業が中断するというアクシデントがありました。その場にいた学生の迅速な対応により、無事に三蔵祭当日を迎えることができました。

模擬店や展示、ステージ企画やサークルイベントによりキャンパスが活気にあふれ、2日目には「水曜日のカンパネラ」によるスペシャルライブを開催し大いに盛り上りました。また、学科の催し物にも大変多くの来場者に足を運んでいただき、楽しんでいただけたことを嬉しく思います。

三蔵祭をきっかけに、地域の皆様との交流や結びつきの大切さを再認識しました。今後も地域の皆様との「ご縁」を大切にし、



魅力的な三蔵祭を実現できるよう精進してまいります。

来年は記念すべき50回目の開催となります。脈々と受け継がれてきた三蔵祭。節目にふさわしい盛大な三蔵祭となることを心から願っております。

第49回三蔵祭運営委員会 委員長

海洋生物科学科 3年 濱崎 悠太郎

経済学科 模擬店企画・運営で生の経済を学ぶ

経済学科では講義内容・ゼミの活動・研究活動などについてポスター展示を行い、石丸・楠田・高羅・早川ゼミが模擬店を出店しました。

高羅ゼミでは3・4年有志の18名でホットサンドを販売しました。夏休みに何度も試作をし、4つのメニューを考案しました。仕入れ値を少しでも安くしようと何件も店をまわったり、目を引くように看板や飾りつけにも力を入れました。当日の客数や他店の動向も視野に入れて売上を予想し、値段や販売量を決めることで、ふだん学んでいる経済学を実際に体験でき、面白い経験でした。2日目はセットで購入するとお得にしたり値引くことで、1日目よりも多くのお客様にご購入いただき、2日間で900食を販売することができました！注文殺到時は調理が追いつかず大

変でしたが、連携プレーで乗り切りました。協調性や接客が評価されて、MOGITENグランプリで53店のなかから審査員特別部門で優勝しました！

来年度はぜひ皆さんも出店して三蔵祭を盛り上げていきましょう！

経済学科 3年 上原 万依



人間文化学科 老若男女が楽しめる縁日を

人間文化学科は、縁日を行いました。

小さなお子様から中高生、大人まで老若男女問わず楽しんでいただけることを意識しながら、スーパー・ボール・スケート、ヨーヨー釣り、射的、ボーリングを用意しました。また、人間文化学科の魅力が伝わるよう、学科の先生方の授業紹介や学科学生の



履修時間割、学部特有の活動である「学生サポーター」などのパネルをデザイン・作成しました。

2日間の三蔵祭本番では予想以上のお客様に足を運んでいただき、「楽しかった」「ありがとう」「来てよかった」などの嬉しいお言葉をいただき、企画してよかったなと感じました。学科の1年生の中から有志を募り行った学科企画でした。人数も少なく、期間も短かったことで思うようにいかない場面もありましたが、お客様に喜んでいただけたとともに特にトラブルもなくやり遂げることができたので良かったです。先生方にも多くのお力添えをいただき、学生同士の仲も深めることができた良い機会となったと思います。

人間文化学科 1年 村上 凜

第49回 三蔵祭

スマートシステム学科

自分自身の未来が見えた三蔵祭

私にとって、三蔵祭は今回が初めての経験だったため、何をしようか悩んでいました。

そこで1年次生全員で話し合った結果、今年の展示はブロック席で囲んだレスキューロボと犬型ロボットの2種類を自由に操作することができるというものにしました。この展示にした理由は、三蔵祭に来る子供たちが一番楽しんでくれそうのが、自分で自由に操作することのできるロボットだと思ったからです。また、三蔵祭では多くの方が来られることが予想されたため、あらかじめ夏休みにレスキューロボを7台作りました。

三蔵祭当日では当初予想していた以上の来場者があり、ロボットの数が足りなくなりました。これにはとても驚きました。そして、それと同時にロボットで楽しく遊んでくれる子供たちを見て、夏休みに頑張って作ってよかったですと感じました。

私は今回の三蔵祭で自分たちの作ったもので人が喜んでくれるうれしさを知り、将来も何か人の喜んでくれるようなものを作りたいと思いました。

スマートシステム学科 1年 高橋 海斗



生物工学科 楽しく！面白く！体験する！

生物工学科では、来場者に参加・体験してもう企画、ポスターや標本の展示などを行いました。植物ハーバリウム作りやプラ板作りではお客様が溢れるほどでしたし、ブドウジュースの試飲やバラ酵母パンの試食も「おいしい」と大評判で、名物アマゴの塩焼きには長い行列ができたりと、大変な賑わいでした。

私は骨格標本の担当で、普段あまり見る機会のない動物の姿を展示しました。中でも自分が作製したシマヘビとスッポンの骨格標本は個人的に思い入れあり、お客様が「こんな形してるんだ！」と驚いていたり、子供たちが目を丸くして見入っているのを見た当たりにし、やって良かったと心から思いました。「自分も標本を作りたい」と言ってくれる方や、飼育している生き物の話をしてくれる方もいて、私にとっても楽しい時間でした。

三蔵祭の二日間は本当にあつという間に感じました。来年の

三蔵祭は骨格標本の種類も増やし、さらに盛り上げたいと思っています！

生物工学科 2年 川辺 透也



薬学科 楽しんでもらうためには自ら楽しむ!!

私たち薬学部薬局班は未来創造館で学生薬局を開き、ハンドクリーム作り体験や漢方薬についてのポスター掲示などを行いました。また、模擬店でメロンパンアイスとコーヒーを販売しました。

今年の薬局班は「全力で楽しむ！」をテーマに掲げて活動しています。コロナ禍が明け昨年以上に多くの方に来て楽しんでいただくため、まずは私たち自身が仲を深めて楽しんで活動したいという思いがありました。そこで今年度の春から三年生が主体となって定期的に学校生活や勉強などの相談会を開いてきました。学年を越えて交流を深めることで、約1か月の準備期間も和気あいあいと楽しい雰囲気で取り組みました。また皆でアイデアを出し合い、「ハロウィーン」をテーマに学生薬局や模擬店を飾ったり、班メンバーが仮装をしたりと来ていただいた方々にワクワクしてもらえるような工夫をしました。

三蔵祭当日は2日間で子供からお年寄りまで多くの方が来てください、「ハンドクリームを練る作業が楽しかった」「漢方薬に興味が湧いた」など嬉しい声

をたくさんいただきました。また模擬店では昨年以上の売り上げを出すことができました。私たちも全力で楽しみ、生き生きとした笑顔あふれる班メンバーの姿がとても印象的でした。思い出に残る最高の三蔵祭になったと思います。私自身不慣れなことが多く試行錯誤の日々でしたが、班の仲間や先生方の協力のおかげで無事に成功を収めることができました。ありがとうございました。来年も薬局班が三蔵祭を盛り上げていきますので、ぜひご期待ください！

薬学科 3年 角場 里菜





海外研修参加者へ奨学金を贈呈！

この度、福山大学経済学部同窓会及び福山大学後援会、並びに学校法人福山大学から「バリ島研修」、「プサン研修」に参加する20名の学生に対して奨学金を給付することになり、令和5年7月24日に奨学金贈呈式を開催しました。

まず、豊田経済学部同窓会長より「同窓会の目的は、在學生の課外研究活動の支援事業も含まれます。海外研修では、日本ではできない経験をして、グローバルな視点を磨いてほしいと考えています。」と贈呈の挨拶がありました。

続いて、村上福山大学後援会会长より「自分自身も約3ヵ月の海外留学経験があります。日本のこと、自分のことを海外で紹介できるように準備して、海外研修では普段大学で学べないことを学んできてほしいと思います。」との挨拶がありました。

最後に、大塚学長より「コロナ禍が下火となり、ようやく活発

に海外研修等を行える見通しとなりましたが、円安や航空運賃の高騰など海外へ出かけるには経済的な負担が大きくなっています。そこで今回、学海外研修へ行かれる皆さんへ奨学金を給付することとしました。この研修がこれから的学生生活や今後の人生において価値のある経験となることを祈念します。」との挨拶がありました。

学生を代表して、国際経済学科（3年）の三島衣織さんより奨学金贈呈へのお礼と、「学生一人一人がしっかりと自覚をもって海外研修へ臨みます。」と決意表明がありました。

今後も同窓会、後援会、福山大学が協力して、海外研修等に行く学生へ支援を行っていく予定です。

経理部



株式会社シンセラと株式会社広島銀行より液晶ディスプレイを受贈！

この度、株式会社シンセラが株式会社広島銀行のSDGs私募債「地域まちづくり貢献型」を利用され、地域社会への貢献を目的とした寄付として、アクティブラーニング教育や教職員の研修にも使用できる「液晶ディスプレイ」を寄贈していただくことになりました。令和5年9月22日に贈呈式を開催しました。

株式会社シンセラ取締役社長の大江様（平成9年3月工学部食品工学科卒（現在は生命栄養科学科）より「地元の大学であり、また、母校でもある福山大学の後輩たちに、SDGsの目標の一つである「質の高い教育をみんなに」を趣旨として、液晶ディスプレイを寄贈させていただきます。」また、株式会社広島銀行甲山支店長の藤岡様より「地域社会の発展に携わる事ができ、大変光栄に思います。」と贈呈の挨拶がありました。大塚学長より「本学の教育においては、何が課題であるか自分で発見し、それを解決する力をつけるアクティブラーニングの推進に力を入れており、その目的のためにご寄贈の品を大いに活用させていただきます。」と謝辞があり、大江社長へ感謝状が贈呈されました。

大江取締役社長、藤岡支店長、このたびは誠にありがとうございました。

経理部



東村ブドウ園のブドウで「ハワイ州マウイ郡大規模火災義援金」

本年8月に米国ハワイ州マウイ郡で大規模火災が発生し、甚大な被害が発生しました。被災したマウイ郡と福山市は古くから様々な交流をしてきた経緯があり、福山市はマウイ郡への災害復興義援金を募り、多くの福山市民が義援金を寄贈しました。福山大学では、生命工学部生物工学科の学生が大学の東村ブドウ園で栽培しているワイン用ブドウ「マスカット・ベーリーA」を学内で販売し、その売り上げ金を義援金として福山市に寄贈しました。今年は天候に恵まれ、品質の高い800kgのブドウを収穫しました。そこで、ワイン醸造所の醸造量を超えて余ったブドウ200kgを学内で販売し、義援金とすることを計画しました。ブドウ販売会には鈴木理事長、大塚学長のほか多くの教職員や学生が駆け付けて売り上げに協力し、200kgのブドウは約1時間で売り切れました。ご協力いただきました皆様に心からお礼を申し上げます。

後日、山本生命工学部長、生物工学科4年生3名が福山市役所を訪問し、売上金7万円を寄贈しました。その際、枝廣直幹福山市長から感謝状をいただき、福山市から米国ハワイ州マウイ郡において被災された方々に届けられました。被災地の一日も早い復旧復興と現地の方々のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

工学部・生命工学部事務室



「学科の名称変更」及び「入学定員・収容定員」の変更に関するお知らせ

<学科の名称変更について>

令和6年4月より、現在の工学部スマートシステム学科、生命工学部生物工学科及び生命栄養科学科の3つの学科名について、以下のとおり、変更いたします。

この学科名の変更は、令和6年4月時点で、3つの学科の1年生から4年生の全学年が対象となります。

(※令和6年3月に卒業される皆さまについては、現在の学科名称での卒業となります。)

【学科名変更】※文部科学省届出済み

○工学部

スマートシステム学科 → 「電気電子工学科」

○生命工学部

生物工学科 → 「生物科学科」

生命栄養科学科 → 「健康栄養科学科」

学科名は変更されますが、本学科の授与する学位、カリキュラムや卒業要件、3ポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）について、変更はありません。

<入学定員・収容定員の変更について>

令和6年4月より、入学定員・収容定員について、以下のとおり、変更いたします。

【入学定員・収容定員変更】

○ 経済学部

・経済学科 170名 → 経済学科 180名

・国際経済学科 50名 → 国際経済学科 40名

○ 人間文化学部

・心理学科 50名 → 心理学科 70名

○ 工学部

・情報工学科 50名 → 情報工学科 60名

○ 生命工学部

・生命栄養科学科 50名 → 健康栄養科学科 40名

※学科名称変更

・海洋生物科学科 100名 → 海洋生物科学科 110名

○ 薬学部

・薬学科 150名 → 薬学科 110名

○ 全学部学科 入学定員 970名 → 960名

○ 全学部学科 収容定員 4,180名 → 4,060名

◆入試説明会

高等学校進路指導担当者を対象に、福山大学・福山平成大学の入試説明会を6月5日(月)～9日(金)の計5日間、中国・四国・九州・沖縄の10会場で開催しました。本学会場では大学参観を兼ねた入試説明会を実施し、参加教員の事前希望で各大学の施設・設備を見学後、学校法人福山大学社会連携推進センターで両大学の入試説明会を行いました。参加者は、計13県92校111名でした。

◆進学相談会（業者主催）

今年度の業者主催の進学相談会は、新型コロナウィルス感染拡大防止対策を徹底された環境の中、各地区で開催され、関西・中国・四国・九州・沖縄の23都市44会場で高校生・保護者・教員の進学相談に応じました。

◆高等学校 生徒・保護者・教員の本学訪問

高等学校の上級学校訪問を受け入れております。こちらも新型コロナウィルス感染症の影響でコロナ禍以前と比較すると訪問高校数は減少していますが、徐々に増え、今年の福山大学への訪問は10校411名でした。(10月末現在)。

令和6年度 一般選抜前期A日程・大学入学共通テスト利用選抜(前期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和6年1月5日(金)～1月24日(水) 消印有効	
試験日	令和6年1月31日(水)～2月3日(土) ※試験日自由選択制 (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	(一般選抜前期A日程) 令和6年2月7日(水) (大学入学共通テスト利用選抜(前期)) 令和6年2月9日(金)	
試験地	〈1/31～2/3〉 本学・福山(社会連携推進センター)・広島・山口・福岡・岡山 〈1/31〉 鳥取・浜田・宮崎 〈2/1〉 米子・大分 〈2/2〉 静岡・京都・熊本 〈2/3〉 名古屋・神戸・佐賀 〈1/31・2/1〉 東京・大阪・松山・高知・鹿児島・那覇 〈2/2・2/3〉 松江・高松・今治・小倉	

令和6年度 一般選抜前期B日程

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和6年2月5日(月)～2月15日(木) 消印有効	
試験日	令和6年2月21日(水)	
合格発表日	令和6年2月24日(土)	
試験地	本学・福山(社会連携推進センター)・広島・岡山	

令和6年度 一般選抜後期・大学入学共通テスト利用選抜(後期)

試験のある学部	福山大学	福山平成大学
	経済・人間文化・工・生命工・薬	経営・福祉健康・看護
出願期間	令和6年2月22日(木)～3月5日(火) 消印有効	
試験日	令和6年3月9日(土) (大学入学共通テスト利用選抜は、個別学力試験は課しません。)	
合格発表日	令和6年3月13日(水)	
試験地	本学・福山(社会連携推進センター)・広島・福岡・岡山・大阪	

◇入試金減免制度について◇

福山大学及び福山平成大学の同窓生の子弟及び在学生の兄弟に対して、就学時の経済的支援のため、入学金を減免する制度を実施しています。同窓生の子弟及び在学生の兄弟とは、入学者の親、兄弟、姉妹のいずれかが福山大学及び福山平成大学の卒業生又は在学生(留学生は除きます)です。詳細については、入試広報室までお問い合わせください。

◇入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置について◇

福山大学では、地震・豪雨等により災害救助法が適用された地域において被災された方に対して、申請に基づき、本学入学試験受験生に対する入学検定料、入学金及び授業料に関する支援措置を行っております。詳細については、入試広報室までお問い合わせいただぐか、ホームページをご確認ください。